

平成 26 年度 研究成果報告書

Research Achievement Report FY2014

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパ・アメリカⅡ講座 講師
氏名 Name	菊池 正和
専門分野 Academic Field	イタリア演劇、シチリア文学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	未来派演劇における劇作法と演出
<p>平成 26 年度は、科学研究費補助金・基盤研究 C の研究課題「近現代イタリア演劇における演出の成立過程の研究」の採択 3 か年計画に基づいて、初年度の研究テーマである「未来派演劇における劇作法と演出」について研究を進めた。</p> <p>近代ヨーロッパ演劇史においてイタリアでは演出家の登場が他国に比べて 70 年ほど遅れた、という通説の検証から始め、その背景について、巡業劇団の構造や演技における俳優の身体を中心性、劇作術の脆弱さなどのアプローチから、その理由を解明した。その後、1910 年代以降の未来派の活動、マニフェストのうちに、後の演出家登場の萌芽を以下のように指摘した。</p> <p>未来派が「演出主体の演劇」の素地を提供したのは、以下の 3 点においてである。</p> <ol style="list-style-type: none">① 観客を能動的に劇的行為へ参加させる手法を成文化し、舞台空間を拡大した。② 同時性や浸透といった手法に代表される新しい劇作法を提唱し、同時に演出の手法を豊かにした。③ 色彩や光、造形的なセットや衣装などを通して、演劇が要求する精神を表現することができるという認識のもとに、スペクタクル性を重視した空間を構成した。 <p>この研究成果については、イタリア学会第 62 回大会（2014 年 11 月 8 日、於：愛知県立大学）で「演出の成立過程における未来派演劇の貢献」というタイトルで口頭発表を行った。</p> <p>また、来年度の研究課題である 1920 年代の未来派演劇の予備研究として、劇作家 Pino Masnata の戯曲作品と演出家で理論家でもあった Anton Giulio Bragaglia の著作群の分析を進めた。</p>	